

自己点検・自己評価報告書

令和 3 年 3 月 31 日現在

I S I 外語カレッジ

令和 3 年 3 月 31 日作成

目 次

第 1 設置者及びマネージメント

第 1 設置者及びマネージメント 1

基準 1 理念・教育目標 1

1-1 理念・目的・育成人材像などが明確に定められているか 1

1-2 教育目標が明確に定められているか 2

1-3 学校の将来構想を抱いているか 2

1-4 理念と教育目標が教職員、学生に周知されているか 3

第 1 設置者及びマネージメント 4

基準 2 組織 4

2-1 組織体制 4

2-2 教員組織 5

2-3 事務組織 5

2-4 採用と育成 6

第 1 設置者及びマネージメント 7

基準 3 財務 7

3-1 財務状況 7

第 1 設置者及びマネージメント 8

基準 4 教育環境 8

4-1 校地・校舎 8

4-2 施設・設備 9

第 1 設置者及びマネージメント 11

基準 5 安全・危機管理 11

5-1 健康・衛生 11

5-2 危機管理 12

第 1 設置者及びマネージメント 13

基準 6 法令の順守等 13

6-1 法令の順守 13

第 2 運営に関する事項	15
---------------------	-----------

基準 7 運営全般	15
------------------	-----------

7-1 組織的な運営	15
------------	----

7-2 納付金	16
---------	----

7-3 情報の共有化及び発信	16
----------------	----

第 2 運営に関する事項	18
---------------------	-----------

基準 8 学生募集	18
------------------	-----------

8-1 募集方針	18
----------	----

8-2 募集活動	19
----------	----

8-3 入学選考	20
----------	----

第 2 運営に関する事項	22
---------------------	-----------

基準 9 教育活動	22
------------------	-----------

9-1 教育計画	22
----------	----

9-2 実施	24
--------	----

9-3 成績判定	26
----------	----

9-4 授業評価	27
----------	----

第 2 運営に関する事項	29
---------------------	-----------

基準 10 学生支援	29
-------------------	-----------

10-1 支援体制	29
-----------	----

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援	30
-------------------------	----

10-3 生活面における支援	30
----------------	----

10-4 進路に関する支援	31
---------------	----

10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援	32
------------------------	----

第 2 運営に関する事項	34
---------------------	-----------

基準 11 教育成果	34
-------------------	-----------

11-1 成果の判定	34
------------	----

11-2 卒業生の状況の把握	34
----------------	----

第1 設置者及びマネジメント

基準1 理念・教育目標

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

1-1 理念・目的・育成人材像などが明確に定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	5	学校教育の理念・目的・育成人材像などは明確に定められている。当校ホームページ、企業概要の冊子、学生スタートブック、教職員ガイドブック、入学案内などに明記されている。	教職員が常に理念や教育目的を意識し継続されるように、講師会や定例会議などで都度意識を高めている。校内にも「ISI 理念」や「ISI 約束」を掲示している。
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	5	2018 年度から 2020 年度の中期ビジョン戦略マップで、戦略目標・数値目標を達成するための KPI を確立している。	具体的な計画・方法は実行を伴わないと意味がないので、その実行力をきちんと人事評価することで PDCA サイクルを循環させる。
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5	3 か年に 1 回時代の変化に対応し、中期計画を立て、本校のバランススコアカード、戦略目標を立てている。	法務省の政策や社会のニーズなど、常にアンテナを高く張る必要がある。
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	5	教職員には学内に理念が記載された額を掲示し、また教職員ガイドブックにも提示、それに沿って学内で研修会も行い、周知している。学外には学校案内書・ホームページで広く公表している。	HP に掲載し、広く公表はされているが、新規でどんどん新規採用もしているため、新規入社の教職員にも計画的に周知していく研修計画が必要。

1-2 教育目標が明確に定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-2-1 学校の特色として挙げられるものがあるか	4	進路に即した①授業体系と②指導体系が最大の特長である。具体的には、①はコロナ禍においてオンラインでの授業体系を確立し、その後ハイブリット授業の質の向上を図るために、講師への研修及び情報共有に努めた。また、選択科目を実施し、試験対策や会話力向上などの学生の目的別に、効率的に学習できるプログラムを備えている。②については、進路アドバイザーを配置し、専門的な見地から指導を行っている。授業と進路指導が一貫してつながっている為、学習の意味や進路決定がしやすい環境を提供しており、本校の最大の強みである。	年々多様化する学生のニーズに対し、どのように答えていくかが最大の課題と言える。また、コロナ禍におけるオンライン授業やハイブリッド授業の質にもまだ課題が見られる。これらの多様化するニーズに応えるために、本社部門及びグループ校と連携し、情報の共有、課題点の抽出を行い、解決を図っていく。また、常にかリキュラムの見直しや進路指導方法の見直しを行い、教員に対して研修を施していく。

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-3-1 学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	4	中期計画を3年毎に策定している。また、日々変化する日本語学習のニーズに対しては、戦略会議・カリキュラム編成会議を定期的に開催し、総合的な将来の構想を描きながら進められている。	学生のニーズと社会のニーズは必ずしも一致しないので、以下のそのギャップを受けられる構想ができるかが課題である。

1-4 理念と教育目標が教職員、学生に周知されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-4-1 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	4	正規教職員については、運営会議・戦略会議・カリキュラム編成会議等各種重要会議の決定事項を部内の定例会議において速やかに伝達している。非常勤講師においては、年2回の講師全体会議において、同様に学校運営方針の共有を図っている。 また、学生に対しても新入生オリエンテーション、学生生活スタートブック及び進路活動ハンドブックにおいて、いつでも確認ができる体制となっている。	各種会議での伝達や各種ガイドブックの配布に加え、オンライン上でも確認ができる仕組み作りを進めている。急激な変化や対応を求められる現代においては、これらのリソースが必要不可欠であり、具体的には Campusmate-J を使った支援システムの構築を行っている。これにより、運営方針に従ったルールの方策定と作業手順が明確化され、教職員のみならず、学生においても情報を受けることができるため、更なる精度を目指して取り組んでいる。

総括	課題及び改善内容
外国人留学生を取り巻く環境の変化は目覚ましく、とりわけニーズの多様化は年々広がる一方である。また、2020年度はコロナ感染拡大により、授業形態の急速な変化が求められた。このような変化に対応する為、中期計画を策定するとともに、バランススコアカードに基づく戦略マップへの落とし込み、戦略目標、数値目標、KPI など具体的な目標設定を立てて取り組みを行っている。 このような計画のもと、緊急の課題であるオンライン授業の提供を行い、通常のカリキュラムの改善と並行して時代に合った新しい授業スタイルへの移行が図られた。 これらの取り組みに対しては、一人一人の教職員がこれにそった個人目標を半期ごとに立てるようにし、人事考課が行える仕組みとなっている。	様々な取り組みの変化は、授業内容の変更にとどまらず、組織編成や人材育成にも大きな影響を及ぼしている。また、このような変化は、教師だけでなく学生の意識改革にもつながり、更なる教材・教具の整備や授業方法の改善へ拍車をかけている。 特に、ニーズの多様化に伴う DX への取り組みや ICT に対応できる人材育成や進路指導の改善など、時代を先読みした取り組みが欠かせない。このような多くの課題に対し、人材育成については研修制度の抜本的な見直しが進んでおり、進路指導については、本部にキャリアセンターが設置され、各種説明会を実施するなどの取り組みが行われている。

第1 設置者及びマネジメント

基準 2 組織

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

2-1 組織体制

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-1-1 設置代表者及び経営担当は基準要件に適合しているか	5	法務省及び東京都の各種学校設置基準に適合している。	特になし。
2-1-2 事業規模に応じた組織体制になっているか	5	事業規模に応じた組織と人員が配置されている。	特になし。
2-1-3 受入れする学生の言語対応可能な組織になっているか	5	主な留学生対応可能な言語として、中国・韓国・英語・ベトナム語対応可能な職員が配置されている。	それ他言語対応が厳しい国からの受け入れについては、可能な限り多少でも日本語学習歴のある学生受け入れるように努力している。

2-2 教員組織

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-2-1 校長、主任教員及び教員は基準要件を備えているか	5	法令や各種学校設置基準、東京都の指針等を遵守している。	特になし。
2-2-2 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限が明確に定められているか	5	就業規則、講師業務依頼通知書、教職員ハンドブックにより、定められている。	特になし。
2-2-3 職務分掌と責任がステージごとに明確にされているか	4	評価基準によりステージごとに明確にされている。	校内組織表と分掌内容基準書を作成しており、さらなる明文化に努めていく。

2-3 事務組織

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-3-1 生活指導責任者、入管事務担当者等を含む各業務の担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限、承認プロセスが明確に定められているか	5	明確に定められている。	特になし。
2-3-2 各業務の担当者が学生及び教職員に周知されているか	4	教職員には周知されている。学生への周知は、業務が多岐にわたっているため難しいところではあるが、学校生活に不便を与えることはほぼない。	周知可能な事項を精査、校内で掲示するなど工夫をしていく。
2-3-3 入管申請取次者、防火防災管理者を設置しているか	5	設置している。	特になし。
2-3-4 職務分掌と責任がステージごとに明確にされているか	5	業務分担表に明示され、評価基準によりステージごとに明確にされている。	必要に応じた改定が必要。

2-4 採用と育成 教務

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-4-1 教職員の採用制度は整備されているか	5	社内規定の手順に従い募集、採用を行っている。 採用の際には、面接、資格確認、適正検査を行っている。また、応募者からの質問にも応じ、採用前の確認事項をクリアにして入社してもらっている。	急な欠員等にも対応できる人員数の確保。
2-4-2 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	4	学校運営に必要な人材は確保できている。入社前・後の新人研修を実施しており、その後の計画的な育成計画構築を進めている。	新卒採用者の育成計画も含め、体系化された教育・育成システムを確立させていく。
2-4-3 人事評価制度は整備されているか	5	人事評価制度は整備されている	特になし。
2-4-4 昇進昇格制度は整備されているか	5	昇進昇格制度は整備されている。	特になし。
2-4-5 賃金制度は整備されているか	5	賃金制度は整備されている。	特になし。

総括	課題及び改善内容
学校法人立の各種学校として法令や各種学校設置基準、東京都の指針等が遵守され、適正な運営がなされている。	人材育成に関しては、新卒採用を含め、体系化された教育・育成システムを確立させていく。

第1 設置者及びマネジメント

基準3 財務

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

3-1 財務状況

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-1-1 中長期的に学校の財務は安定しているといえるか	5	学校運営の財政の基盤は「学生の納付金・諸手数料」に因るため、学生数に影響されるものの、一定の入学希望者数は安定している。	今後の安定した学校運営のために入学者の安定確保と正しい収支計画が課題である。 新型コロナの影響から、学生の入国制限がかかるなど、予想外の事態に備える対策が必要である。
3-1-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	本校の予算及び収支計画については、毎年度において有効かつ妥当なものとなっている。	特になし。
3-1-3 財務について会計監査が適正に行われているか	5	会計は会計事務所に委託し、適正な監督が行われている。	特になし。

総括	課題及び改善内容
本校の財務について会計監査は適正におこなわれており、会計監査を受ける側・実施する側の責任体制も明確であり、監査の実施スケジュールも妥当なものである	新型コロナの影響により減少した学生数の回復に努めていく。

第1 設置者及びマネジメント

基準4 教育環境

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

4-1 校地・校舎

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-1-1 教育機関として適切な位置環境にあるか	5	教育機関として適切な位置・環境を整えている。 池袋という立地から通学に便利なところに位置している	特になし。
4-1-2 安定的に教育活動を継続するための校地校舎が整備されているか	5	校地校舎は整備されている。 2020 年度に一部改修工事を実施し、キャリアブースが設置された。	2021 年度に耐震工事を予定している。
4-1-3 校舎面積は基準に適合しているか	5	校舎面積は基準にしている。	特になし。
4-1-4 防災に対する体制は整備されているか	5	防災に対する体制は整備されている。	有事の際に活かせるように職員用の訓練を各学期に実施しているが、さらに実践に即したものにするため、内容を精査していく。

4-2 施設・設備

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-2-1 教室・その他施設は基準に適合しているか	5	東京都の基準に適合している。	特になし。
4-2-2 教室内は十分な照度があり換気がなされているか	5	照度、換気共に問題はない。	特になし。
4-2-3 すべての教室は、教育上必要な遮音性が確保されているか	5	確保されている。	二重窓にしているものの、校舎裏は線路沿いにあり、上階で少し走行音が聞こえるため、聞き取りテストではボリュームに留意している。
4-2-4 授業時間外に自習できるスペースが十分に確保されているか	5	確保されている。	特になし。
4-2-5 教育、学生数に応じた図書やメディアが整備され、利用できる環境になっているか	4	図書は基準を満たしている。 学生用 PC、wi-fi 環境、学生専用コピー機が整備されている。	新たに進学と就職活動に必要な図書を購入したが、十分に活用がされていない。展示の工夫が必要。
4-2-6 視聴覚教材や ICT 教育の設備が整備されているか	4	各教室に授業用 PC、電子黒板、プロジェクターが整備されている。	教育 ICT 導入に向けてさらに整備を進めていく。
4-2-7 教職員の執務に必要なスペースは確保されているか	5	非常勤用の教務室・授業準備室・専任室の 3 つが確保されている。	収納スペースの増設などの工夫をして更なる向上に努めたい。
4-2-8 学生数に応じたトイレが設置されているか	5	建物の基準に応じたトイレは設置されており、学生数に応じて適切な数が設置されている。	特になし。
4-2-9 法令上必要な設備等が備えられているか	5	東京都の実地審査に合格しているため、適合していると判断している。	特になし。

4-2-10 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形上であるか	5	危険な形状ではないと判断している。	常に法令と照らし合わせ、確認する必要がある。
4-2-11 バリアフリー対策が施されているか	5	バリアフリー対策が施されている。	定期点検や避難訓練を通じ、危険な箇所を継続的に確認する必要がある。
4-2-12 校内の清掃状況は管理が行き届いているか	5	校内の清掃状況は管理が行き届いている。	特になし。

総括	課題及び改善内容
施設・設備は東京都の基準に合格しており、教育上の必要性に対応している。施設・整備のメンテナンスは外部業者に委託し、定期的に行っている。また、ICT 対応として、全教室に授業用 PC などの整備が完了している。校内は、図書室、自習室、保健室、PC ルーム、学生ラウンジ、ロビー、カフェなど充実した設備を整えている。	2020 年度に耐震工事を計画していたが、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2021 年に延期される見込みである。

第1 設置者及びマネジメント

基準 5 安全・危機管理

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

5-1 健康・衛生

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-1-1 学生の健康管理を担う組織体制があり、機能しているか	4	毎学期、新入生全員結核検診を行っているが、2020 年度コロナの影響もあり、保健所の指導により実施を見合わせた。校内には救急ボックス、AED 設備が備えられている。AED の使い方講習を教職員が受講している。 緊急時や言語対応が可能な病院を調べて緊急時に備えている。	定期的に AED 講習会を開催し、全職員が緊急対応可能な体制にする。 手洗い、咳などのマナーの告知を校内にしているが、新型コロナの経験から、授業内でも感染予防の周知徹底をしていく。コロナが収束し次第、結核検診を再開予定。
5-1-2 学生全員が適切な健康保険に加入しているか	4	留学ビザ保有者は全員国民健康保険に加入させている。学内システムで国民健康保険の有効期限を管理している。	2 年目に国民健康保険の更新状況が漏れやすいので確認していく。短期生は海外旅行保険加入者が少ない。急な病気に備えるための方法は要検討。
5-1-3 感染症発生時の措置を定めているか	3	結核など法定伝染病が発生した場合の対応については、連携が必要な関係機関の連絡先や報告書が文書化されている。	病院や保健所からの指導を受け、都度対応しているのが現状。処置方法や手順を明文化していきたい。新型コロナのような前例のない感染症に備えてマニュアル策定は要検討事項。

5-2 危機管理

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-2-1 危機管理体制が整備されている	4	危機管理マニュアルがあり、職員に周知されている。	人事異動等に合わせて常に最新状態を保つようにしていく。
5-2-2 火災・地震・台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所を定めているか	5	避難方法・避難経路・避難場所は定められている。教室に避難経路を掲示している。	毎学期クラスが変更するため、毎学期避難経路の再確認を各教室で実施する。
5-2-3 気象警報が発令された場合の措置を定めているか	4	気象警報の状況で休校等の措置が決定した場合、学校公式 HP 及び学生ポータルサイト、Facebook に当日 6:00 までに公開している。	気象の変化は流動的であるため、学生や教職員の安全確保を最優先にしながら検討している。
5-2-4 災害等に対する避難訓練を定期的に実施しているか	5	年に一度、管轄の警察署・消防署・区役所・公園事務所の協力で避難訓練を実施している。	毎学期、職員用の避難訓練を実施し、さらに実践に即したものにするため、内容を精査していく。
5-2-5 防災用品が備蓄されているか	5	避難時のヘルメット・脱出用工具・ラジオのほか、災害用の備蓄（水・食料・防寒具・簡易トイレ）を校内に格納してある。	賞味期限切れ備蓄の処分と新規購入を計画化していく。

総括	課題及び改善内容
避難訓練を全職員・全学生で年 1 回実施している。防災用品も学生や教職員の人数に見合った数を取り揃えて、非常時に備えている。	日本語が未熟な学生も多いので、なかなかスムーズに行動することが難しいこともある。非常時に行動できるように、HP や学生ポータルサイト、Facebook にも各言語で案内できるよう務め、学生個人の防災意識を高めていく必要がある。職員用の避難訓練は非常に重要なので、今後も内容を改定しながら継続的に実施していく。

第1 設置者及びマネジメント

基準6 法令の順守等

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

6-1 法令の順守

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-1-1 法令、設置基準等の順守と適正な運営がされているか	5	法令、設置基準等の順守と適正な運営がされている。	特になし。
6-1-2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4	個人情報保護のための対策は行っているが、不十分な部分もある。学校事務室の改修工事を終え、鍵付きキャビネットを増設した。	次年度は全ての個人情報を鍵付きの場所に保管する。
6-1-3 入管・日振協・関係官庁への届け出、報告を滞りなく行っているか	5	届出、報告は滞りなく実施されている。	特になし。
6-1-4 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	全項目の問題点改善は達成できていないが、できる項目から改善を進めている。	改善できることから順次進めている。物理的に改善できない事柄もあるため、引き続き検討を進める
6-1-5 自己点検・自己評価の結果は公開しているか	5	HP上に公開している。	特になし。

総括	課題及び改善内容
学校法人立の各種学校として、法令や専修学校設置基準、東京都の指針等が遵守され、適正な運営がなされている。個人情報保護に関する取り組みは学校法人 ISI 学園としても明確に規定を定め、その対策に常に取り組んでいる。当校としては学園の方針、規定に沿って学校が保有する個人情報保護に努めている。	外国人留学生が多数在籍する本校としては、パスポート・在留カード等の外国人留学生の在留に関する個人情報もきちんと保護しなければならないため、個人情報保護の油断による意識低下を防ぐため、総体的に意識向上・維持の定期的な啓発活動を昨年度同様行っていく。

第2 運営に関する事項

基準 7 運営全般

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

7-1 組織的な運営

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-1-1 短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されているか	5	短期及び中長期の運営方針と経営目標は毎年明確化されている。常勤はもちろん、非常勤講師にも年2回の講師会で全員に周知されている。	特になし。
7-1-2 管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされているか	5	管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされている。	引き続き、グループ校の大学・専門学校・日本語学校間で業務基準の修正を行い、管理運営していく。
7-1-3 意思決定システムは確立されているか	5	意思決定システムは確立されている。	緊急時などの意思決定のスピード化が必要である。
7-1-4 予算編成が適切になされ、執行ルールが明確であるか	5	予算編成が適切になされ、執行ルールが明確である	特になし。
7-1-5 業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われているか	4	本部業務推進部と連携し、業務効率化を進めている。業務見直し、運用検討が組織的に行われている	業務基準書の改定に伴い、常時職員全員が同じ認識で対応できるようにする。次年度は学生サービスセンターが発足し、さらに業務の効率化を図っていく。
7-1-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	Campusmate-J 導入から2年が経ち、研修等を重ねて教職員のスキルも向上し、作業効率が上がった。	Campusmate-Jの新メニューに関しては、引き続き研修を重ね、教職員のスキルアップを図っていく。

7-2 納付金

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-2-1 検定料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付期日が明示されているか	5	納付金額は学則、HP、募集要項、学生スタートブックに、納付期日は年間予定表に明示されている。	特になし。
7-2-2 学費以外に入学後必ず必要になる費用が明示されているか	5	学費以外に必ず必要になる費用は明示されている。	特になし。
7-2-3 関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されているか	5	関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている。	特になし。

7-3 情報の共有化及び発信

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-3-1 外部の情報を積極的に入手し経営に生かす仕組みがあるか	4	外部の情報を積極的に入手し経営に生かす仕組みがある。全国各種学校日本語教育協会や東京都専修学校各種学校協会に所属し、情報を入手している。	引き続き、得られた情報を経営に生かしていく。
7-3-2 内部の情報共有を効率的に行う仕組みがあるか	5	定例の職種別会議と、定例会議、臨時会議等を通して情報共有を効率的に行っている。	特になし。
7-3-3 入学希望者・在籍者及び関係者が理解できる言語で、適切に情報提供をおこなっているか	4	現状 11 の言語を HP で掲示し、入学希望者・在籍者及び関係者に向け、適切に情報を提供している。主な 4 言語対応可能な職員が常住している。在校生用の学生ポータルサイトには、主要 4 言語での情報公開の他、各言語の自動翻訳機能を備えている。	言語対応が不可能な国籍の学生への情報提供は課題であるが、受け入れ許可後入学までの間、出来るだけ基礎的な日本語学習をして入国するよう指導に心かけていく。

総括	課題及び改善内容
グループウェアの有効活用で情報共有は効率的にできている。また、東専各、JALSA などの研修・懇話会にも出来る限り出席し、入管や行政関連の新情報を入手し、校内で共有している。入学希望者や在籍者に対する情報発信では HP、パンフレットのほか、言語対応可能なスタッフが常駐している。在校生用の学生ポータルサイトには主要 4 言語での情報公開の他、各言語の自動翻訳機能を備えている。	情報発信に関しては、主要言語は十分対応できているものの、英語や日本語が理解できない一部の少数言語の国籍の学生募集は、本国で 150 時間以上事前に日本語学習者を選抜していく必要がある。また情報共有意識の個人差をなくすため、各種書類の他言語化を引き続き推進していく必要がある。

第2 運営に関する事項

基準 8 学生募集

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

8-1 募集方針

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-1-1 理念・教育目標に沿った学生の受入れ方針を定め、年間募集計画を策定しているか	5	ISI グループの教育理念・教育方針・アドミッションポリシー等を募集要項の巻頭に記載し、かつ HP 等にて学生・代理店・その他提携機関へ広く周知のうえ、適切な募集計画のもと受け入れ態勢を確保している。	特になし。
8-1-2 募集定員の範囲で募集活動を行っているか	5	各学期・各校ごとに修了者予測および在籍者数をモニタリングし、関連諸規制に従い、適正に定員の設定・管理をおこなっている。以って、定員を超過しない範囲での募集活動を徹底している。	特になし。
8-1-3 募集担当職員は、学校の情報を正しく認識した上で、入学相談を行っているか	5	募集担当職員は学校との定例マーケティング会議や研修を通して、プログラムやコース内容を含め、正確かつ最新の学校情報の入手・活用・開示に務めている。学生への入学相談の際は、わかりやすく誤解を与えない様、各言語にて発信している。	特になし。

8-2 募集活動

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-2-1 教育内容・教育成果を含む、最新かつ正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語が開示されているか	5	最新かつ正確な学校情報は、多言語の募集要項（12言語）・HP・リーフレット・SNS・個別面談等で該当言語の運用能力がある外国籍スタッフにより学生・代理店・その他提携機関に開示・説明している。	特になし
8-2-2 求める学生像を明示しているか	5	HPおよび募集要項・学生用スタートブック等にて ISI の理念・教育方針を明示している	特になし
8-2-3 応募資格及び条件を、入学希望者の理解できる言語で明示しているか	5	募集要項・HP にて、各言語で明示している。（12言語）	特になし
8-2-4 募集活動を行う国・地域の法令を順守した募集活動を行っているか	3	消費者契約法・景品表示法・個人情報保護法等関係法令・諸規則・主務官庁の通達および企業理念・コンプライアンス規程等に則り、法令遵守を徹底した募集活動をおこなっている。	市場の拡大・提携代理店の増加に伴い、海外代理店の法令順守管理に限界がある。特に WEB サイトにおける著作権管理は今後徹底して行う。
8-2-5 海外の代理店等に、最新かつ正確な情報提供を行っているか	4	HP・リーフレット・SNS の活用や学生管理システム（CamJ）による情報共有、ウェビナー等による相談会の開催など、コロナ禍にあっても、最新かつ正確な情報の提供をおこなっている。	定期的な海外出張対応から WEB 会議による説明会へと変わり、ウェビナーや動画を活用してわかりやすく丁寧な説明を行っている。
8-2-6 海外の代理店等の行う募集活動が、適切に行われていることを把握しているか	3	海外代理店や提携機関との業務委託契約や現地の関連法令に基づき、適切に事業運営をなされているか、メールや SNS 等を活用して日常的に連絡をとり、またウェブ会議等を通じてモニタリングしている。不適切な業務運営が認められる時は、契約内容にもとづき取引を停止している。	海外代理店の責任者とオンライン会議等でコミュニケーションの機会を増やし募集活動における改善点に関して提言を行う。

8-3 入学選考

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-3-1 入学選考基準及び方法が明示されているか	5	募集要項で、アドミッションポリシーを明示のうえ、書類や面接等による選考基準を多言語で明記し、これを学生・代理店・提携機関等に通知している。	特になし
8-3-2 学生情報を正確に把握し、提出書類により信憑性の確認を行っているか	4	共有の営業支援ツールおよびファイルサーバーに入学選考に関するデータベースを保存し、提出書類は母国語対応も含め、複数のスタッフで確認を行っている。	対応できない言語では日本語の翻訳の添付をつけさせ、現地での公証を取得する様にしている。
8-3-3 入学選考を行う体制が整備されているか	5	入学希望者とは母国語または英語でのコミュニケーションを取り、Web 会議システム等を活用し、募集部門のスタッフが入学選考を実施している。	特になし
8-3-4 受け入れるコースの教育内容が、志願者の学習ニーズと合致することを確認しているか	5	コース内容は募集要項（スケジュール・クラスの規模・教授方法・費用）、ホームページ（その他）に掲載している。入学後は学生生活スタートブックにて開設授業科目を確認することができる。	特になし

総括	課題及び改善内容
基準 8「学生募集」については、上記評価の通り、概ね取り組みができていえる。ISI グループ 校の募集に関しては本部マーケティング統括部が担当している。厳格な定員管理のもと、年間募集計画を策定し、直接または代理店経由での募集活動を推進している。学生の入学選考は、学生の履歴書・就学理由・日本語学習歴・日本語能力・経費支弁能力を様々な提出書類および面接により精査・選考を行い、また学生の受け入れの観点では、学校運営基準に照らし合わせ、当校の教育理念を理解	課題 ①募集活動は世界情勢に大きく影響される為、受入れ方針、募集数、在籍者数のタイムリーかつ適切管理が必要であり、提携代理店との情報共有や更なる細かいコミュニケーションが必要となってくる。 ②代理店における当校の情報が古いままであったり、間違った情報が流出しないよう、定期的に代理店に説明し、代理店のホームページや営業資料を確認していく必要があ

し、勉学意欲が強く、日本語学習に対して明確な目標を持つ優秀な学生を、分け隔てなく世界の様々な国・地域から受け入れている。

本部マーケティング統括部の管掌のもと、中国（大連）に直営事務所を運営し、東京・大連を拠点に入学選考および申請業務を一元管理で行っている。海外代理店や提携教育機関との業務提携において、その経営状況・営業免許・事業規模・募集実績・募集販路・営業推進態勢など総合的に評価・判断し、厳選して取引先を選定し、代理店契約締結後に学生の受入れを開始している。

入学希望者に配布する募集要項では入学条件を明記しており、ホームページでは学校の教育成果、留学している学生のリアルな姿として、在校生の成長の過程や卒業生の進路や活躍を学内に掲示し、また Web サイトや SNS で発信することで、国内はもちろん、海外からでも十分に学校生活をイメージでき、入学後のミスマッチが起こらないように心がけている。

る。

③海外の代理店や教育機関の取引数が多く、現地訪問が叶わない状況下では、全ての情報の確認・把握が困難であり、提携代理店を効率よく精査をする仕組みが必要となる。

④コロナ禍において入国制限等に伴う未入国者に対しては、オンライン授業を提供し、キャリアプランに影響が無い様になっている。また、入国時期等に関しても正確な情報をタイムリーに学生に提供し、あらゆる不安を払拭する様な対応を行っている。

第2 運営に関する事項

基準 9 教育活動

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

9-1 教育計画

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-1-1 理念・教育目標に合致したコース設定が行われているか	5	理念・教育目標に合致したコース設定が行われている。	学生ニーズの変化に合わせ、コースの見直しを定期的に行う必要がある。また、これらの変化に対し、カリキュラム変更・評価方法の見直しなども求められるが、戦略会議及びカリキュラム編成会議にて対応可能であり、またこれをもとに課題解決に向けてさらに改善を行っていく。
9-1-2 教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされているか	5	教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされている。具体的には、教育推進部－現場で連携し、取り組みが行われている。	資格試験取得、進学と就職目標のニーズに合わせて、選択授業を設けている。また進路別担当者及びクラス担任が本社のキャリアセンターと連携し、進路に基づいた教育の改善にもさらに力を入れていく。
9-1-3 レベル設定に当たっては、国内でまた国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしているか	5	JLPT・CEFR に沿ったレベル設定をしている。	JLPT 新基準の他に、CEFR などの枠組みを取り入れたレベル設定をしているが、今後はさらにその妥当性の検証を進めて改善していく。
9-1-4 教育内容及び教育方法について、教員間で共通理解が得られているか	5	教職員ガイドブックにも記載し、教職員感での共通理解を図っている。	特になし。

9-1-5 カリキュラムは体系的に編成されているか	4	カリキュラムは年間シラバスに加え、テキスト開発、演習項目の追加など、実践に近い授業内容開発は、定期的なカリキュラム編成会議で見直して編成を行っている。	特に選択授業の就職クラスと JLPT クラスに関しては改良が進み体系化が顕著となってきた。また、初級新シラバスが構築されたので、今後は、他のレベルのカリキュラムでも体系化を図っていく。
9-1-6 教育目標に合致した教材は選定されているか	4	教育推進部と連携し、教育目標に合致した教材選定を行っている。定期的に協議を行っている。	従来は、非漢字圏の学生が多く在籍していたことから、非漢字圏を中心とした教材選定が行われていたが、近年就職・大学希望者が増えたことにより、これらの目標に合致した教材へとシフトしている。
9-1-7 補助教材、生教材を使用する場合は、出典を明らかにするとともに、著作権法に留意しているか	4	補助教材、生教材の使用についても教育推進部を軸に進められている。特に、初級教材においては、著作権法に反しないか確認を行い、利用基準などの制定が行われている。一方、中上級においては、整備が不十分な箇所があり、周知徹底が充分とは言えない部分もある。	職員ガイドブックに記載はされてはいるが、教師の意識に任せているところもある。また、これらの改善には、本部との連携が欠かせず、専門部門と連携しながら、改善を行っている。
9-1-8 授業に関する学習リソース及び情報を、授業開始までに教員に提示しているか	5	授業に関する学習リソース及び情報を、授業開始までに教員に提示している。また、授業開始後についても、専任―非常勤講師間で連携し、補足説明や頼性が行える環境整備に配慮している。	学習リソース・情報は研修時や学期初めに担当教員に提示し、共有している。
9-1-9 教員配置が適切になされているか	5	教員配置が適切になされている。全教員の指導歴を資料にまとめ、指導可能なレベルに配置している。	特になし。

9-2 実施

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-2-1 授業開始までに学生の能力を筆記試験等により判定し、適切なクラス編成を行っているか	5	授業開始前に、オンラインテスト（オリジナル）を実施し、クラス配置している。クラス開始後も学生の申し出及び、担当教員からの報告で、より適切なクラスへの異動を検討し、配置している。 テストがオンライン化されたことにより、スピーディーに学生に情報を提供することができるようになった。また、記録保管の面でも改善され、学生のみならず講師に対しても良い影響が出ている	特になし。
9-2-2 教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達しているか	5	基本データについては、Campusmate-J にて情報の一元管理を行っている。これらの情報は、専任だけでなく、非常勤・学生も随時オンライン上で確認ができる仕組みになっているため、学習目的や試験結果、本国での学歴など必要な情報は随時閲覧できる仕組みである。	使用方法が多岐に渡る為、マニュアル化や研修が欠かせない。また、Campusmate-Jの基本情報からデータを抽出し、分析する技術についてもさらに検討を行っていく。
9-2-3 決定したシラバスによって授業が行われているか	4	決定したシラバスに従った授業の推進がなされている。特に、ICT 化が進み、利用にばらつきなどが生じないように、定期的に研修を行うなどの機会も増やしている。	教育推進部主催のカリキュラム編成会議において、定期的に報告がなされている。また、学生ニーズに沿った授業への取り組みも整備されつつあり、環境が大きく変わってきている。今後の課題としては、シラバスの明示化とチェック体制の構築にある。
9-2-4 修了の要件が定められ、学生の理解できる言語によって明示されているか	5	卒業、修了認定の基準が全在校生に配布する学生スタートブックに明記されている（多言語翻訳あり）。また、都度必要毎に説明も行っている。	学生生活スタートブック 2020 年度に卒業認定基準を掲載している。 学生生活スタートブックの改訂を毎年行う。
9-2-5 教育内容に応じて教育用機器を活用しているか	4	PC、CD デッキ、DVD プレーヤー、電子黒板、書画カメラ、ipad を保有しており、教育内容に応じた活	教育用機材の機材補充と研修を行っていく。

		用方法を共有している。ソフトウェアの積極的な活用も叫ばれており、一部取り入れが進んでいる。	
9-2-6 授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録しているか	5	出席簿及び SL, Campusmate-J にて出席管理を行っている。また、授業記録簿は毎日記録、管理し、5 年間保管している。	出席簿・授業記録簿共に原本の保管場所を確保する。また、SL と Campusmate-J ではシステムが異なる為、作業手順を明確化し管理を行っていく。
9-2-7 理解度・到達度の確認が、適正な時期に行われているか	4	各レベルの課の学習修了後オリジナルのアチーブメントテストを使用し到達度を測っている。また、教科書修了後には校内実力テストを実施し、各クラスの到達度を測っている。また、資格試験の拡大に伴い、外部試験の結果を到達度の確認し使用する動きも出ている。	一部のテスト（作文、会話）の評価基準の妥当性を検討している。より明確な基準の見直しを行う必要がある。通常のレッスン中での評価、また属人化しない評価判定基準を目指して取り組みを行っている。
9-2-8 学生の自己評価を把握しているか	4	年 2 回行っている授業評価アンケートの項目として、授業の理解度、自己学習時間等の項目を設け、自覚を促すと共に現状把握に努めている。 また、google でのアンケートも不定期ではあるが実施し、把握に努めている。	学生の自己評価と、実情は必ずしも合っているとは言えないため、さらなる啓蒙が必要となる。 2021 年度からは、毎学期学生がシステム上で自己目標をたて、学期末に学生と教師が FB する仕組みを導入予定である。
9-2-9 個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援が行われているか	5	学生の学習支援は、進路指導と密接に絡んでおり、近年進路アドバイザーと担任の業務区分化・処理のフロー化ができあがった。また、教室内での指導と教室外での指導も体系化されつつあり、漏れのない指導、一人一人の学生に応じたきめの細かい指導を目指し取り組んでいる。また、生活指導が必要な学生に対しては担任が当たり、対応を行っている。	新たな指導体制が細分化されたことにより、さらなるきめ細かい指導が可能になり、非常勤講師への情報共有も整った。
9-2-10 特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けているか	2	特定の支援を必要とする学生、特にメンタルヘルスケアを必要とする学生支援は整っていない。それでも職職員が親身に話をきいてあげたり助言をするなどで対応をしている。	カウンセラーの配置を検討する必要がある。

9-2-11 授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処しているか	5	生活指導担当者及び、ビザ取次ぎ申請担当者、教務主任、校長が、その相談、苦情の内容により、適切に迅速に対応している。また、クレーム対応表を作成し、全職員に共有できる仕組みを構築している。	特になし。
9-2-12 学習内容、時間割、成績等、教育に関する学生の留意点と、相談担当者が分かる文書を入学時に学生に配布しているか	4	学則、年間スケジュール、進路指導スケジュール、学生スタートブック等配布し、さらにPPTを使用しながら読み合わせを行っている。	入学時にすべてを理解することは難しいので、定期的にガイダンスを行い、啓蒙、周知を行っている。授業外での説明会の実施や、授業開始時に PPT を作成して注意喚起を行うなど、システム化した取り組みにも力を入れている。
9-2-13 留学生活や入管法上の留意点と、それらに関する相談担当者が分かる文書を入学時に配布しているか	5	学則、年間スケジュール、進路指導スケジュール、学生スタートブック等配布し、さらにPPTを使用しながら読み合わせを行っている。	入学時にすべてを理解することは難しいので、定期的にガイダンスを行い、啓蒙、周知を行っている。
9-2-14 JLPT、EJU の指導体制はあるか	5	学生のレベル、ニーズに合わせ、適切な指導を行っている。週 2 回選択科目を設け、より希望に合う級の指導が受けられるように JLPT、EJU の指導を強化している。	特になし。

9-3 成績判定 教務

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-3-1 判定基準及び判定方法が明確に定められ、開示されているか	4	成績の基準は学生生活スタートブックに明確に定められており、平準化されている。これに加え、適時教室内で説明を行っており、年々認知度が向上しつつある。	判定基準が明確化されてきている一方で、講師間の判定基準にバラつきがある。教育企画部と判定基準の精査を行っている。
9-3-2 成績判定結果を的確に学生に伝えているか	5	成績の結果は、Campusmate-J を介して、学生に開示されている。また、クラス内での案内とともに、進路指導時にも確認をしており、認知の向上にも努め	特になし。

		ている。	
9-3-3 判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証しているか	4	成績の基準は明確に定められており、平準化されているが、妥当性については、会話や作文など、属人化し易い科目がある為、均一化の仕組み作りを進めている。	現基準に加え、より客観性のある基準作りを行っていきたいと考える。具体的には、テスト回数・難易度の検証、採点方法などをより明確化するとともに、JLPT や J・TEST など、外部テストの結果等も含めて、検証を行っていきたい。

9-4 授業評価

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-4-1 授業評価を定期的に実施しているか	5	授業評価は、年 2 回授業評価アンケートを実施している。。人事評価のための授業評価は年 1 回行い、面談を通じて FB を行っている。	特にない。
9-4-2 評価体制、評価方法及び評価基準が適切に定められ実施されているか	4	評価体制、評価方法及び評価基準が適切に定められ実施されている。非常勤講師報酬制度にこれら全ての規定が記されており、これをもとに実施されている。	常勤教務職の評価制度が改訂されたが、ステージアップのための評価基準書が必要である。担当するクラスによって評価結果が変わる場合がある為、妥当性の検証が課題である。非常勤講によっては、学生満足度の講師評価に納得できない講師もあり、双方納得できる仕組み作りが必要である。
9-4-3 学生による授業評価を定期的に実施しているか	5	学生による授業評価を年 2 回実施している。評価だけでなくデータの分析化も進んでおり、更に研究を進めていく予定である。	特になし。
9-4-4 評価結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されているか	5	評価結果を分析して、教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されている。	特になし。

総括	課題及び改善内容
教育目標・教育内容などの進捗設計は、教育推進部の設立により明確な基準化が進みつつある。これにより、これまでは属人化傾向にあった授業に対する取り組みは、基準に基づいた取り組みへと移行されてきている。 一方で、学校現場では普遍的な問題も残されており、全体計画と現場の問題点をいかに結びつけるかが大きな課題となっている。特に、「学生がまったくの未習者として来日し、それぞれ希望した進路、資格の取得までのサポートとして、何が求められ、何を求めているかなければならないのか、そのために何が必要となっているのか」といった問題は、これからも続くと思われ、個々に寄り添った指導体制の確立が必要である。 学生が生活の中で日々抱えている問題は多岐にわたっているが、その一つ一つにできる限り迅速に、適切に対応できるよう、教職員全員が情報共有に努めている。学生の少しの変化も見逃さず、また積極的な声かけ、定期的な学生面談等で得た情報に対応できるスキル向上と、教職員間での報告、相談を心がけている。学校全体での見守りで、学生が安心して、より安全に、自身の希望に合った学習と生活を手にできる環境づくりに努めたい。	教育計画の変更に伴い、様々な部分で変革が求められている。授業そのものに対する改善もさることながら、評価基準の明確化が重要となってきており、ルール化が急がれている。また、これらの諸問題は、クラス編成や進路指導にも大きな影響を及ぼす為、大変重要な部分となるが、コース全体に影響するだけでなく、学校運営そのものにも影響を与えるため、慎重に取り組みを進める必要がある。またこれらの改革は、それを指導する教師の評価ともつながっており、総合的な改革が必要となっている。 これら多くの改善を短期間で実現する為には、最新システムの導入と、それを運用する基準の確立が必要不可欠である。また、多くの改善事項に対し、透明性の確保も必要となる。これに対し、2021 年度は学生サービスセンターと教育企画部が改変され、引き続き業務手順の明確化と教育の質向上にあたっていく。 さらに、全体的な取り組みと、個々の取り組みの区分の明確化と精度向上に努め、教育目標に合った授業の提供と評価、それに伴う人事評価を行うことにより、好循環を生み出し、より良い授業環境の提供に努めていく。 また、コロナ禍による授業形態の変化などにも柔軟に対応できる体制を整えていく。

第2 運営に関する事項

基準 10 学生支援

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

10-1 支援体制

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-1-1 学生支援計画を策定し、支援体制が整備されているか	4	皆勤賞、学校長賞といった奨励金制度と、外部団体の奨学金で学生生活支援をしている。安全かつ有意義な留学生活を送るため、言語対応可能な病院や各種施設などの情報を提供している。	キャリアセンターと学校現場のサポートの業務分担を定めていきたい。また次年度は進路指導専門の職員を校内に配置した。
10-1-2 休日及び長期休暇中の学生対応はできているか	4	緊急時の対応指示系統ができています。緊急連絡フローに沿って対応をしている。年末年始、祝祭日以外に対応ができています。	長期休暇前に注意事項について注意喚起している。入学者が18歳以上のため、24時間対応はしていないことを入学前に案内しているが、緊急時には教職員個人携帯へ連絡があり、職員用グループ LINE で情報を共有しているのが現状。最善な方法ではないので、方法を検討していきたい。

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-2-1 入学直後のオリエンテーションを実施しているか	5	実施している。	特になし。
10-2-2 生活に関するオリエンテーションを実施しているか	5	オリエンテーションで各国語版の学生スタートブックを使用しながら説明している。	居住地域によって異なるルールなどの説明ができないため、居住区の公的機関の情報収集を啓蒙していく。
10-2-3 地域の国際交流や、地域活動に参加しているか	2	例年数は少ないものの、池袋お祭りなどに参加していたが、本年度はコロナのため実施なし。	池袋は商業地であるため、地域活動そのものも少ないが、積極的に参加して交流を深めていく。
10-2-4 地域社会に貢献する活動は行っているか	2	路上喫煙を厳しく取り締まるため、職員が見回りを欠かさず行っている。	日本事情の造詣を深め、地域の貢献と社会性を育むために地域の活動参加実施を計画したい。

10-3 生活面における支援

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-3-1 住居支援を行っているか	5	2か所直営寮を所有・運営している。また提携寮も通学通学圏内に多数有している。	民間学生寮との提携や、ゲストハウスなどさらに確保していきたい。
10-3-2 アルバイトに関する指導及び支援を行っているか	5	入管法を周知徹底しながら、希望する学生には案内をしている。履歴書の書き方や電話のかけ方、面接練習などの支援を行っている。	特になし。
10-3-3 交通事故等の相談体制が整備されているか	5	事故発生した際は随時対応できている。	特になし。

10-3-4 定期的に健康診断を実施しているか	4	年1回結核検診を受診させているが、本年度は保健所の指導により実施できなかった。	実施時期を過ぎて入学したが学生は翌年度まで健康診断を受けられていないため、要検討。
10-3-5 学生全体の生活状況について定期的に調査しているか	5	年4回「学生生活調査」を実施し、さらに個別面談を実施し調査している。	調査結果をシステムに登録し、即座に活用できるように管理していく。
10-3-6 その調査結果に対する裏付け確認は適正に行っているか	4	適切に行っている。	特になし。

10-4 進路に関する支援

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-4-1 進路指導担当者が特定され、指導体制が有効に機能しているか	4	進路指導担当者は、進学担当者と就職担当者に分かれ、常勤し、指導に当たっている。また、指導状況は、適時報告会等で示され共有化が行われている。	2021年度より学校内での進路別担当者が配置されたため、本部キャリアセンターと連携し、各種制度や仕組みを整備していく必要がある。
10-4-2 学生の進路希望を把握し、指導担当者間で情報が共有されているか	5	進路担当者を中心に、各クラス担任がまず学生と個人面談し、進路の希望を聴取、その後進路指導担当者と情報を共有し、進路指導の方向性を決定。最適な進路に導いている。また、Campusmate-Jで情報が管理されており、オンライン上で確認が可能である。	前述のとおりである。キャリアセンターでは独自で各種進路説明会を実施しており、情報の漏れや不足を補うサポート業務を行っている。さらに担任とキャリアセンターとの指導区分を明確化し、平等で均一なサポートが行えるよう整備していきたい。
10-4-3 進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にあるか	5	最新の情報、資料を常に貼り出し、常時閲覧可能なファイルを設置している。また、Campusmate-Jにも情報をアップし、情報の提供に努めている。	学校内のキャリアセンターや Campusmate-J の情報を常に最新化し、共有に努めていく。
10-4-4 入学時からの一貫した進路指導を行っているか	4	入学時に主要言語で資料、画像等を交え、進路準備等の説明を行う。その後は期毎に個人面談を行い、進路及び生活に関するカウンセリングを行い、記	進路の明確な希望がある学生はいいが、目的がはっきりしないままの学生の適正を見極め、進学や就職へのアプローチ指導をし、早めに進路決定、行動させ

		録を残している。	るよう継続した指導が必要である。これに対応する為、現在キャリアセンターと協力し、進学モデルの構築を進めている。これにより、進路スケジュールが具体化され、目的の明確化及び啓蒙活動を行ってきたい。
10-4-5 EJU、JLPT、BJT 等の受験指導体制は整っているか	5	EJU 及び JLPT に関しては、願書購入から申し込み、成績入手まで、学校を通して実施しており、年度毎にデータを管理し、成果の分析を行っている。なお、BJT に関しては、啓蒙のみの指導でサポートは行っていない。	EJU・JLPT とともに個人申し込みを行う学生がおり、また成績を開示しない学生がいるため、正確な情報が把握できないという問題が生じている。現時点では、協力を依頼するしかない状況であり、抜本的な最善策は難しい状況である。
10-4-6 大学学内試験対策の指導体制は整っているか	4	キャリアセンターが総合的な案内を行い、担任が個別指導を行っている。担任で対応しきれない案件については、双方連携をとり、対応を決めている。	大学進学と専門学校進学など、複数を希望する学生も多数おり、一律で同じ指導ができないケースが多々ある。個々のケースに応じた指導方法の確立を目指し、現在取組みを行っている。
10-4-7 受験時、就職時の面談指導の体制は整っているか	4	同上	キャリアセンターとの連携で支援を行ってきたい。

10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-5-1 研修受講等により、最新の情報収集が出来る体制がとられているか	5	研修受講等により、最新の情報収集が出来る体制がとられている。	特になし。
10-5-2 入管法上の留意点について、学生への伝達・指導等を定期的に行っているか	4	入管法上の留意点について、学生への伝達・指導等を定期的に行っている。	不定期で、必要に応じて入管法上の留意点の指導している。オリエンテーション以外、定期的に実施する必要性が出てきた場合には、随時実施したい。

10-5-3 在留に関する学生の最新情報を、正確に把握し管理しているか	5	在留期限、一時帰国、修了者・退学者の進路等、在留に関する学生の最新情報を把握管理している。	期間更新、資格変更、卒業や修了、退学、一時帰国など、常に在留状況は把握に努めている。
10-5-4 在留上問題のある学生、及び問題になりえる学生の指導を個別に行っているか	5	出席不良者をはじめ、問題のある学生及び問題になりそうな学生に関して個別面談を実施し、定例会議でも共有している。	教職員によって異なる指導スキルの格差をなくすため、能力の高い職員の指導面談に同席して学べる機会を増やしていき、指導レベルの平準化を図りたい。
10-5-5 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組みを、継続的に行っているか	5	研修受講等により、最新の情報収集が出来る体制がとられている。	特になし。
10-5-6 過去 3 年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていないか	5	発生させていない。	今後も日常の変化にいち早く気付くよう、また、学生指導水準を引き上げるための研修会を実施していく。
10-5-7 除籍、退学、修了、卒業で帰国予定となった学生の帰国確認を適時行い、それら出国確認の書類を適正に管理しているか	5	帰国確認の実施と帰国確認書類の管理を実施している。	様々な手段で連絡を講じても応答のない学生が年に数名発生するので、帰国前に指導を強化する。

総括	課題及び改善内容
在留期間中の在留関係指導は、もっとも大事な学生支援のひとつとして捉えている。問題を抱えている学生が、相談しやすい環境を作ることが最優先ではあるが、日ごろの様子に注意し、事前に問題解消をすることが重要である。 情報収集を怠らないように心がけし、情報をもとに適切な指導をするよう努めている。在籍期間中の指導はもちろん、進学後、就職後のビザ更新や変更、帰国確認も適正管理できている。	資格外活動状況の掌握は、学生個人からの情報に頼らざるを得ず、複数のアルバイト実態等の管理の難しさを感じている。今年度から調査以外に、アルバイト届を学生に記入させ、報告義務の意識向上をはかっている。学生自らが問題意識を持ち、何かあれば学校に相談しやすい学校環境にしていきたいと考える。また、ハラスメントなどの本部に相談窓口を設けている。

第2 運営に関する事項

基準 11 教育成果

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

11-1 成果の判定

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
11-1-1 進路及び卒業・修了判定が適切に行われているか	5	定期的に行う個人面談において、入学時から卒業後の一環した進路指導を行っており、卒業・修了判定は明確な基準に沿って行なっている。	卒業・修了判定基準の改定を行っている。
11-1-2 EJU、JLPT 等の外部試験結果を把握し、適切に管理されているか	4	願書購入から申し込み、成績入手まで、学校を通して実施しており、年度毎にデータを管理し、成果の分析を行っている。	JLPT はネットで願書代なく申し込みができるので、個人で申し込みを行う学生も増えたが、進路指導にもかかわる事項であり、情報収集に関する仕組み作りを進めていきたい。

11-2 卒業生の状況の把握

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
11-2-1 卒業生の状況を把握するための取り組みを行っているか	4	卒業生の進学・就職は、卒業後も完全に把握している。なお帰国者については、無事本国へ帰国できるように在籍中から指導を行い、帰国日をあらかじめ確認し、帰国確認作業を行う仕組みができています。	卒業後時間が経過するにつれ把握しきれていない。同窓会など卒業後の交流会を検討してきた。実行に移すために検討を重ねていきたい。

11-2-2 卒業後の進路を把握しているか	5	卒業生の進路はすべて把握している。	特になし。
11-2-3 進学先、就職先等での状況や、卒業生の社会的評価を把握しているか	3	進学先や就職先はすべて把握している。また先方から学生の近況報告を受けることも多く、学生自ら近況を知らせてくる学生も数多い。いずれも社会的評価を受けているものと受け止めている。	卒業生の活躍や社会的評価がどうだったかはかなり主観的であるので、せめて進学・就職した学生が継続して活動をしているか否かの把握に努めるべく検討していきたい。

総括	課題及び改善内容
事務－教務－キャリアセンターが連携し、積極的に情報提供する仕組みが社内にはできしており、卒業生の進路先や帰国状況の把握は、卒業判定とも合わせて、ほぼ実行できている。しかし一方で、卒業後の進学先や就職先での動向までは把握できておらず、特に、就職の場合は、内定後すぐに資格変更を行う為、確認が難しい状況である。	卒業生全員に対し、所在の確認を行うのは極めて難しい環境下にあるといえる。これは、卒業後に転居する場合が多く、また携帯電話・メール等の番号やアドレスが変わるからである。対策の手段としては、進学先及び就職先との積極的な連携や OB・OG 訪問、進学体験談や就職体験談の開催など、出口戦略に基づいた抜本的な改革が必要と考える。

「出入国及び難民認定法」内の日本語教育機関の告示基準の改定により、日本語教育機関の「学校評価」が義務化されたことを受け、教育の質保証・向上に資するという観点から本校においても「学校自己点検・自己評価報告書」を作成した。

令和元年度の報告書に関しては、昨年度と同様に日本語教育振興協会の「日本語学校における学校評価ガイドライン」を参考に学内に設けた委員会で議論を重ねた結果、以上の通り自己点検・自己評価報告書を作成した。

ISI外語カレッジ校自己点検・自己評価報告書を作成するにあたり学内に設けた委員会のメンバーは以下のとおりである。

令和3年3月31日

ISI外語カレッジ自己点検・自己評価委員会

校長	岡部 かおり
教務主任	井出 千穂美
教務	杉山 雅代 司城 洋子
事務局	東野 梓 高 文喜 渡部 加奈
海外入学相談センター	中村 知弘